令和3年度 現職研修奨励事業活動概要

下関市立垢田小学校

1 研究主題

自らよりよい生活をつくろうとする児童の育成

~学級活動と食育の充実を目指して~

2 主題設定の背景及び理由

本校では、「確かな学力と豊かな心をもち、たくましく生き抜く垢田っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、 めざす児童像を「ねばり強い子」「やさしい子」「元気な子」とし、その具現化を図ってきた。校内研修に おいては、研究主題を『「いきいき学ぶ子供」を育てる授業の工夫改善』と設定し、長年研鑽を重ねてきた。

本校の児童は、明るく素直で、様々なことに興味や関心をもつことができるという長所が見られる一方、自分で考え判断して行動したり、目標を立て見通しをもって取り組んだりすることに課題が見られる。また、自分の思いを通そうとし、好ましい人間関係を築けない児童や生活習慣の乱れから学校生活にしっかりと向かうことができない児童も少なくない。そこで、特別活動を通して児童が学級の友達と協力して活動したり、学年や学級を超えた様々な集団の中で、試行錯誤しながら進んで活動したり経験を積んだりし、集団の一員としての自覚や自己の生き方についてのよりよい認識を深めさせたい。今年度は、まず学級活動の指導に重点を置き、児童が自分の学級や学校への所属意識を高め、集団活動に主体的に関わることができるようにしたい。また、本校で長年実践を重ねている食育と特別活動を関連付け、より一層の充実を図ることで生活習慣を整える一助としたい。このような態度の育成が、児童の豊かな社会性の向上につながるのではないかと考え、上記の研究主題を設定した。

3 研究主題の実現に向けて

(仮説1:授業推進部)

・ 自分の意見をもち、友達の意見と比べたり、よさを認め合ったりできるような指導の工夫を行うことによって、互いに尊重し合い、よりよい学級をつくろうとする児童が育つであろう。

【学級活動(1)】

・ 活動への意欲や期待感を高める工夫をし、自己の成長やなりたい自分を意識した話合いを取り 入れることによって、進んでよりよい学校生活をつくろうとする児童が育つであろう。

【学級活動(2)(3)】

〇 方法

- ・ 子供たちが主体となって進める学級活動の実践による検証 (事前指導や常時活動における指導も含む) 〈学級活動(1)〉
- 学校生活や学校行事を題材にした授業実践による検証〈学級活動(2)(3)〉
- 授業実践について

- ・ 各ブロックで1回全校授業をする。
- 全校授業者以外は互見授業を行う。

【全校授業】

- ・ 仮説の検証に向けての具体的な取組をあげ、指導案に盛り込む。
- 各ブロックで指導案検討会の計画を立て、実施する。
- ・ 授業の一週間前にオリエンテーションを行う。その際、授業の説明とともにその時間における仮説 の検証に向けての具体的な取組について触れる。
- 参観者は、授業評価用紙に記入し授業者に渡す。

【互見授業】

- ・ 本時案のみ用意する。
- ・ 授業全体ではなく、一部の参観でも構わない(授業の導入だけ等)。
- ・ 実施予定日時を事前に研修主任に知らせる。
- ・ 研修主任は実施予定を全職員に周知する。
- 参観者は評価用紙に感想などを記入し授業者に渡す。
- ・ 授業実践の考察を A4 用紙 1 枚程度にまとめて提出する。

(仮説2:食育推進部)

健康によい食事のとり方や望ましい食習慣を形成することで、よりよい生活を作ろうとする児童が 育つであろう。

〇 方法

- ・ 給食時間や総合的な学習の時間、各教科での取組など教科横断的な実践による検証
- 実践について
 - ・ 各自が実践記録を作成する。または、互見授業を行う。

【互見授業】

- 本時案のみ用意する。
- ・ 授業全体ではなく、一部の参観でも構わない(授業の導入だけ等)。
- ・ 実施予定日時を事前に研修主任に知らせる。
- 研修主任は実施予定を全職員に周知する。
- ・ 参観者は評価用紙に感想などを記入し授業者に渡す。
- ・ 授業実践の考察を A4 用紙 1 枚程度にまとめて提出する。

◇ 環境推進部について

- 授業推進部や食育推進部の実践に役立つ校内掲示や教室環境を整える。
- 掲示物や特別活動に関するグッズ作成、図書資料の選定等を行う。
- 掲示物や作成したものは写真等で記録しておく。
- 実践した内容についてA4用紙1枚程度にまとめて提出する。

4 研究構想図

学校教育目標

確かな学力と豊かな心をもちたくましく生き抜く垢田っ子の育成

〈めざす児童像〉

ねばり強い子 (自己実現)

やさしい子 (人間関係形成) 元気な子 (社会参画)

研究主題

自らよりよい生活をつくろうとする児童の育成 ~学級活動と食育の充実を目指して~



〈特別活動でつけたい力〉

- よりよい人間関係を築く力(人間関係形成)
- 進んで学級・学校づくりに参画する力(社会参画)
- ・ ねばり強く目標を達成する力(自己実現)



別活 特 動

学級活動(1)の充実

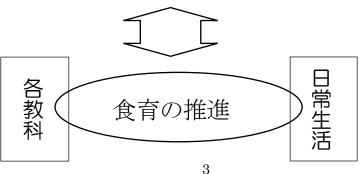
- •計画的な事前、事後の活動 の工夫
- ・効果的な話し合い活動の 工夫
- ・ 意図的な教師の介入場面 の設定
- ・計画委員会の活用
- 学級活動コーナーの充実

学級活動(2)(3)の充実

- 計画的な事前、事後の活動 の工夫
- ・効果的な課題把握のための 提示資料の工夫
- 効果的なゲストティーチャ 一の活用
- ・継続して実践するための振 り返りの工夫
- キャリアパスポートの活用

児童会活動、学校行事の 充実

- 主体的な委員会活動の工夫
- 活発な代表委員会
- 年間を通しての縦割り班活 動の充実
- めあてと振り返りのある学 校行事



5 具体的な取組

月 日(予定)	研修形態	研 修 内 容
4月14日(水)	全体	3年度研修計画の提案及び検討
	ブロック	部会、全校授業の授業者の決定
6月3日(木)	任意	提案授業「学級会オリエンテーション」(4-2荒川教諭)
		放課後ミニ研修「『話合い』を教える」
6月16日 (水)	全体	提案授業学級活動(3)「なりたい自分に近づくために~20年後をみつ
		めよう~」(5-2伊藤教諭)
6月23日(水)	全体	模擬学級会(6/16授業について)
6月 28日(月)	全体	救急救命講習
6月30日(水)	全体	やまぐち総合教育支援センター椙田宗晴先生による指導講話
		・「特別活動中国大会に向けてとりくんでいただくために」
		下松市立下松小学校 榎木道子先生による指導講話
		・「はじめの一歩〜特別活動で学校を元気に〜」
7月14日(水)	部会	部会ごとの研修
7月26日(月)		〇 授業推進部
		・ 学級活動の年間指導計画の作成
		・ 話合いの進め方のひな型づくり
		〇 食育推進部
		・ 食育と関連する特別活動年間指導計画の作成
		・ 実践計画
		〇 環境推進部
		・ 教室掲示の提案
		・ 学級会グッズの提案
7月27日(火)	全体	宇部市小教研特別活動夏季研修会参加
		「コロナ禍でもできる特別活動」榎木教諭
8月19日(火)	全体	山口県小教研特別活動夏季研修会参加
		「コロナ禍でできる学級活動・児童会活動」
		下松市立下松小学校 榎木道子先生
		「新しい時代の特別活動」
		やまぐち総合教育支援センター椙田宗晴先生
8月23日(月)	全体	教育課程復伝 全体計画見直し
8月25日(水)	全体	夏休みに各部会で話し合ったことの共有
9月10日(金)	全体	提案授業 学活(2)エ「弁当の日のメニューを考えよう」(6-1岡田教
		諭)授業説明
10月13日(水)	部会	部会ごとの研修

		〇 授業推進部
		 指導案検討
		○ 食育推進部
		· 公開授業予定決定
		○ 環境推進部
		タブレット上のワークシート等の蓄積、持ち帰りについての方法
		検討
10月18日(月)	任意	公開授業 学活(2)エ「お弁当の日を 5 年生に伝えよう」(6-1・5-
		1・5-2岡田教諭)
10月22日(金)	任意	公開授業 学活(2)エ「友達のお弁当からよさを見つけて取り入れよう」
		(6-1 岡田教諭)
10月26日(火)	任意	公開授業 学活(3)ウ「自主学習の仕方」(1-1坪根教諭)
10月29日(金)	任意	公開授業 学活(2)エ「食べ物はどこから」(4-1河野教諭)
11月24日(水)	全体	全校授業 学活(1) (4-2林教諭)
		指導講話 福岡教育大学教職大学院 教授 脇田哲朗先生
11月26日(金)	2名	第 15 回中国地区小学校特別活動研究大会岡山大会参加
12月 1日(水)	全体	中国地区小学校特別活動研究大会岡山大会復伝
12月 7日(火)	任意	公開授業 学活(2)エ「おやつの食べ方」(2-1綿加教論)
12月 8日(水)	全体	全校授業 学活(3) (5-1福井教諭) 研究協議
		(研修支援訪問を兼ねる)
12月15日(水)	任意	公開授業 学活(2)と生活単元と関連づけたもの「お店を開こう」(こだ
		ま学級北村教諭)
1月19日(水)	全体	全校授業 学活(2)イ (2-1藤本教諭)
		指導講話 大分大学教育学部 准教授 長谷川祐介先生
1月21日(金)	任意	全校授業 学活 (2) エ「きゅうしょくのひみつ」 $(1-2$ 吉村教諭)
1月31日(月)	任意	公開授業 学活(2)イ「きもちをじょうずにつたえよう」($1-1$ 北村教諭)
2月2日(水)	部会	部会ごとの振り返り
2月3日(木)	任意	公開授業 学活(2)ウ「災害に備えよう」(5-2中堀教諭)
2月8日 (火)	任意	公開授業 学活(1)(3-1中本教諭)
2月10日(木)	任意	公開授業 学活(2)エ「しっかり食べよう3度の食事」(3-2大上教論)
2月16日(水)	全体	3年度の振り返り
2月21日(月)	任意	公開授業 学活(2)エ「食べて元気に」(5-1吉本教諭)
2月25日(金)	全校	全校授業 学活(3)ア (2-1綿加教諭)
		指導講話 國學院大學人間開発学部初等教育学科 教授 杉田洋先生
3月2日(水)	任意	公開授業 学活(1)(6-2長谷川教諭)

6 各部の取組

(1) 授業推進部

【成果】

- ・ 授業を実践したり、他の先生の授業を参観したりすることで、学級活動(1)(2)(3)の内容や授業 の流し方が分かった。
- 年間指導計画の大幅な見直しをおこなったことで、計画に沿って学習を進めようとできた。

【課題】

- ・課題を自分事として捉えさせる手立てが難しかった。
- ・ 学級会の流し方は、発達段階に応じて工夫していく必要がある。
- 話合いの収束の仕方を工夫していく必要がある。
- 一人一授業など、公開する時期が後半に固まってしまったので、早い時期に行うとよい。

【来年度取り組みたいこと】

- ・ 話合い活動の系統図作成 (発達段階を踏まえた到達点の設定)
- 話し合いたくなる議題、自分事としてとらえられる題材の選定について
- ・ 話合いの収束の仕方について

(2) 食育推進部

【成果】

- ・ 各学年の学級活動の内容と、給食指導・食に関する指導の内容、教科等の食に関する指導との関連を年間を通して見直すことで、1年間の見通しをもって公開授業の計画を立てることができた。
- ・ 全校一斉に同じ時期に取り組むテーマを設定することで、教員の意識改革につながった。
- ・ 学校全体での食育の推進により、自分に配膳されたものは大切にきれいに食べる意識が高まっている。
- ・ どの学年においても、マナー等をしっかり指導したことによって、身に付いてきている。

【課題】

- 同学年で足並みをそろえて授業をすることが課題である。
- ・ 各学年での横断的な食育が定着してきたので、次段階として、学年間の縦のつながりを意識した 内容の見直しをしていくべきである。

(3) 環境推進部

【年間取組事項】

- ・ 特別活動年間計画ファイル作成
- ・ 学級会で使用するグッズの選別・提案
- 学級掲示物
- ・ タブレットの研修・活用・アプリの環境整備

【次年度課題】

- ・ 廊下の掲示板に貼れるための蓄積していく特活の写真や掲示物保存・作成
- ・ 栄光の部屋縮小、間の教室の有効活用と清掃
- ・ 児童会室の活用と活動の掲示等

7 成果と課題

年間を通して、やまぐちふれあいセンターの椙田先生、下松小学校の榎木先生、福岡教育大学の脇田 先生、大分大学の□谷川先生、國學院大學の杉田先生といった多くの指導者をお招きして、特別活動に ついての講義をしていただき、特別活動についての理論的なことを学ぶことができた。また、多くの先 生方による授業公開を行うことで、実践からの学びを共有することができた。

具体的には、学活(1)の事前指導から学級会の流れ、事後の取組に至る一連の指導方法や学活(2)と学活(3)の指導方法の基礎基本について、年度当初に比べ理解できたこと、年間指導計画の見直しを行い、計画的に学活の授業を行うことができたことなどが挙げられる。このことは、児童の意識の変化にもつながり、年度末のアンケートでは、「あなたは、学校生活や学校行事に、目標をもって取り組んでいますか。」や「あなたは、学校生活や学校行事で自分の目標を達成できていると思いますか。」という問いに対して「そう思う」と回答している児童が増えた。また、年度当初、肯定的な回答が少なかった「あなたは、自分のよさを分かっていますか。」や「友達は、あなたのよさを認めてくれていますか。」という問いにも「そう思う」と回答している児童が増えた。このことから、教師が計画的に学活の授業を行うことは、児童に学校生活での目標をもたせ、達成させることで充実感を味わわせることができ、自己肯定感や自己有用感の向上につながるといえる。

一方、「あなたは、学級がよりよくなるために学級のみんなに伝えたいことがありますか」及び「あなたは、学級がよりよくなるためについて学級のみんなに伝えていますか。」という問いに対して「そう思う」と回答した児童は増えてはいるものの、まだまだ低く、教員のふり返りでも、「児童から議題がでにくい」「児童が課題を自分事としてとらえさせることが難しい」という意見があった。学級会や学活の授業で、児童が活発に話合いを進めるためにも、話し合いたくなる(自分事として捉えられる)議題(題材)の選定は不可欠である。児童が、自ら課題を発見できるような手立ても工夫しなければならない。